

2020年度版

概要

大会・デモンストレーション



【概要】

- 01 はじめに
- 02 履歴
- 03 ディスクドッグとは

【大会】

- 04 ディスクドッグルール
- 05 ディスタンスルール
- 06 フリースタイルルール
- 07 設営
- 08 タイムスケジュール
- 09 撤収

【デモンストレーション】

- 10 デモンストレーションとは
- 11 設営
- 12 タイムスケジュール
- 13 撤収

【さいごに】

- 14 お知らせ
- 15 ホームページ紹介
- 16 おもい

01 はじめに

2016年4月「北海道 シリウス 友の会」を設立しました。

私共の団体は、ディスク(フリスビー)やボール等いわゆるおもちゃを通し犬とのコミュニケーションを図り、しつけやマナーを学び、そこからディスクドッグへと繋げる事を役割とした団体です。

ここ数年、各メディアを通して色々と犬の飼い方について問われている時勢に伴い、家族として迎えられたペット達、間違った方向に向かわぬよう私共が、そこへの架け橋になればと思っています。

私共の団体は、市町村・愛護団体・動物取扱機関との連携を取りボランティアを趣旨とした、趣味の一環として行い、確かな実績と経験を重ね信頼を積み上げ、今日に至っております。

そして、団体立ち上げ当初より行っているイベント(デモンストレーション)・大会・セミナーを基に人と犬とのコミュニケーションの可能性や未来に向けて発進し続けたいと思っています。

また、営利目的ではなく、コミュニケーションの一つであるディスクドッグをより一層の多くの方達に知って頂くために「大会・デモンストレーション」等を行って活動したいと思っています。

02 活動履歴

【2016年】

- ・ 北海道シリウス友の会設立
- ・ 春夏秋と3回大会を開催
- ・ 剣淵町道の駅 10周年記念
デモンストレーション実施
- ・ 江別市動物愛護フェスティバル
デモンストレーション実施

【2017年】

- ・ 春夏秋と3回大会を開催
- ・ 江別市動物愛護フェスティバル
デモンストレーション実施

【2018年】

- ・ 春夏秋と3回大会を開催
- ・ 江別町動物愛護フェスティバル
デモンストレーション実施
- ・ 鷹栖町山恵ドッグラン
デモンストレーション実施

【2019年】

- ・ 春に大会を開催
- ・ 江別町動物愛護フェスティバル
デモンストレーション実施
- ・ 真駒内アイスアリーナわんにゃんフェスティバル
デモンストレーション実施
- ・ 留萌市川まつり
デモンストレーション実施
- ・ 鷹栖町山恵ドッグラン
デモンストレーション実施

03 ディスクドッグとは

競技者(人間)と競技犬とのペアで行うアニマルスポーツの一種です。

競技者が投げたディスクを競技犬が空中でキャッチし、その得点を競いあいます。

ここで言うディスクとは、プラスチック製の円盤状の物(大きさや重さ等は競技の運営団体により多少違う)を言います。

競技の種類には主にディスタンス部門とフリースタイル部門の2種類があります。

また、犬と共に楽しく遊ぶスポーツで、プロのように賞金で生活するようなスポーツではありませんが、充実した犬との共存生活を過ごせる一面を持っています。

04 ディスクドッグルール

- A) 共通ルール
- B) 投げては、年齢・性別を問わない。
- C) ケガや病気をした競技者は、権利を放棄しなければならない。
- D) 1頭の犬と1人がチームを組み、各ポイントを競います。
- E) 競技中の犬と投げ手、そして関係者以外は、競技場(フィールド)に降りてはならない。
- F) 犬には、競技終了後ただちにリードをつけ、脱走防止やドッグファイト等をさせてはいけなない。
- G) 控え競技場、または指示された時は、犬にリードをつけて歩かなければならない。
- H) ディスク(frisbee)は、犬用のディスク以外を使用してはいけなない。
- I) 競技中や練習時を除いて、犬には必ずリードもしくは、サークル(小屋)での管理とする。
- J) 地方条例に基づいて、全ての競技に参加する犬は、狂犬病の予防接種を受ける必要があり、主催者にそれを認められなければならない。
- K) 飼い主は、犬の排泄物を処理する必要がある。もし競技中に排泄してしまったら、ただちに競技を中止し、それを処理したのち競技を再開する。

- L) 審判にたいして、罵声を浴びせたり、不適切な言動をはいたり、スポーツマンらしくない行為をした者は、競技者の資格を剥奪する。

05 ディスタンスルール

- A) 60秒間の中で、ディスクを投げ犬がキャッチした場所を得点とし、そのポイントを競う競技。
- B) フィールドは、以下の図)1の通りとする。
- C) ルールの詳細は、ホームページのルールを参照して下さい

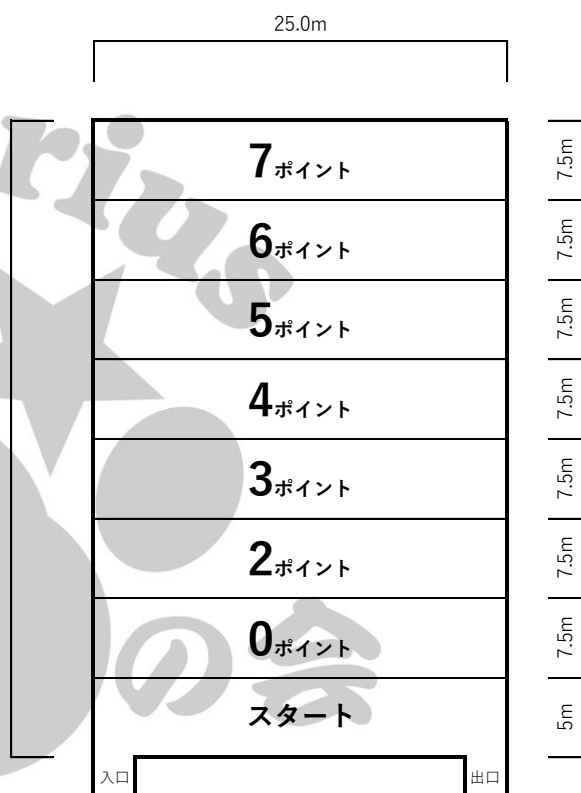


図)1

06 フリースタイルルール

- A) フィールドは、ディスタンスフィールドをそのまま使用します。
- B) 各自が用意した120秒間の曲に合わせて人と犬との演技とする。
- C) ディスクは、5枚から10枚を使用する。
- D) ポイントは、人のスキル・犬のスキル・それを合わせたスキルの高い技を高ポイントとし、それを合わせた合計ポイントで競い合います。

07 大会設営

- A) 設営場所は、通路の確保や危険防止のため10m～15m以上の距離を取ります。また、犬の脱走やディスクの場外にも考慮した考えを視野にフィールドを確保します。
- B) 横幅25.0m×縦幅57.5mのProtection net(防護ネット)を張るものとする。また、ネット高は60cm～90cm以上の物とします。
- C) ネットの回りは、本部テント(運動会テント・タープ)をたてます。また、競技者の方も熱中症や防寒用としてタープが並びます。
- D) Line(ライン)は、芝を考慮し肥料用石灰を使用します。
杭は、7.5m～10m間隔に使用し、杭の打ち込み長さは、20cm以下としグラウンドの暗渠に影響を与えない長さを打ち込むとします。
その日の風によりますが20本～30本程度使用します。
- E) フィールドは、以下の図2通りとする。

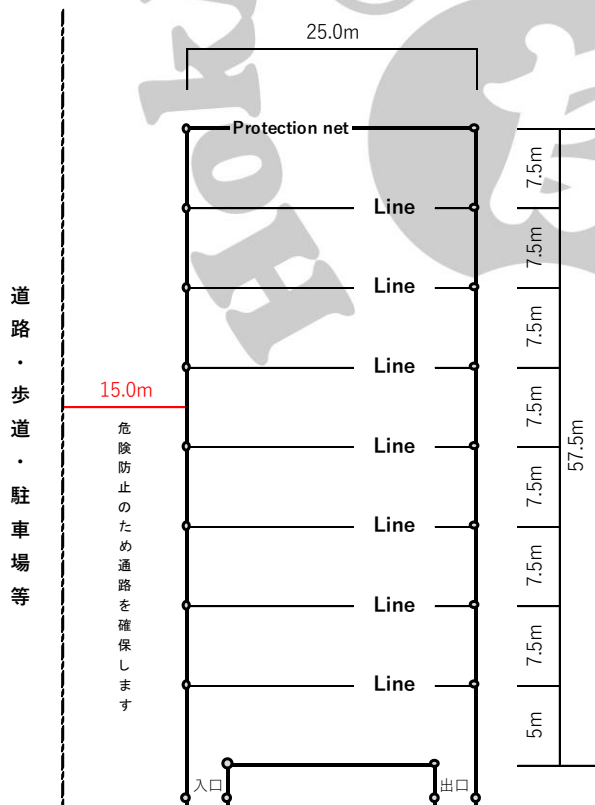


図2

08 タイムスケジュール

- A) 以下の図3にタイムスケジュールの参考例を掲載します。
- B) エントリー数や各クラスにより1分から2分程度の競技時間となり、ある程度の時間操作を行いながら進めていきます。
- C) 運営上のトラブルや悪天候、交通トラブルがあらかじめ予想される場合にへの周知徹底を心掛けているのと共にスケジュールのデジタル化する事により、円滑に競技会を進める事が出来ま

タイムスケジュール サンプル

クラス	経過タイム	合計数	開始時間	終了時間
プレイヤーミーティング		0:30:00	8時00分	8時30分
プレイ開始			8時30分	
スロー練習		0:10:00	8時30分	8時40分
ビギナークラス 1R	10組 × 0:02:00 =	0:20:00	8時40分	9時00分
レディースクラス 1R	15組 × 0:01:30 =	0:22:30	9時00分	9時22分
オープンクラス 1R	20組 × 0:01:30 =	0:30:00	9時22分	9時52分
レトリーブクラス	15組 × 0:02:00 =	0:30:00	9時52分	10時22分
シニアクラス	5組 × 0:01:30 =	0:07:30	10時22分	10時30分
フリースタイル練習 & レトリーブ・シニア表彰式		0:30:00	10時30分	11時00分
フリースタイル	5組 × 0:04:00 =	0:20:00	11時00分	11時20分
総エントリー数		70組		
スロー練習		0:10:00	11時20分	11時30分
ビギナークラス 2R	10組 × 0:02:00 =	0:20:00	11時30分	11時50分
レディースクラス 2R	15組 × 0:01:30 =	0:22:30	11時50分	12時12分
オープンクラス 2R	20組 × 0:01:30 =	0:30:00	12時12分	12時42分
決勝集計 & スロー練習		0:15:00	12時42分	12時57分
ビギナークラス 決勝	5組 × 0:01:30 =	0:07:30	12時57分	13時05分
レディースクラス 決勝	9組 × 0:01:30 =	0:13:30	13時05分	13時18分
オープンクラス 決勝	9組 × 0:01:30 =	0:13:30	13時18分	13時32分
スロー練習		0:20:00	13時05分	13時25分
ダブルス	0組 × 0:02:00 =	0:00:00	13時25分	13時25分
ロング	0組 × 0:02:00 =	0:00:00	13時25分	13時25分
番外エントリー数		0組		
集計		0:20:00	13時25分	13時45分
表彰&閉会式		0:20:00	13時45分	14時05分
エントリー数		70		

図3

09 撤収

- A) 速やか且つ、時間内に撤収を行います。
- B) 競技者撤収後フィールド・駐車場全域にゴミのチェックや忘れ物のチェックを行います。
- C) 最後に管理者による確認をして頂きます。

10 デモンストレーションとは

デモンストレーション(以後デモとする)は、ディスタンス・フリースタイルでの競技ではなく、「見せる」に重点を置いたイベントとしています。

第一にデモ中にMCを交えた犬とディスクの楽しさを伝えます。また、笑いや感動や犬とのコミュニケーションで意外性がありますので、かなりの注目を集める事ができます。

第二にフィールド構成ですが、広さはあまりとりませんが、各市町村により定められた規制があると思いますが、フィールドを作成しその中でデモを行います。また、フィールド無しの中でも行う事も可能です。

第三にデモ意外に場内参加型スタイルや、体験ディスク、ディスクスローセミナー、しつけ教室等、そのイベントにあったデモを行う事が出来ます。

また、北海道には、ディスクドッグのプロと言う物は、存在していません。

スタッフを含め全員がボランティアで参加しており、ディスクドッグを広めたく集まっています。

この様な各イベントに対して、ディスクドッグのデモを用いて場を盛り上げ、各メディアや新聞並びに雑誌、広告、ポスター等、織り交ぜて全体のイベントを盛り上げる事を第一に考えています。

11 設営

- A) 設営場所は、通路の確保や危険防止のため10m~15m以上の距離を取ります。また、犬の脱走やディスクの場外にも考慮した考えを視野に距離を確保します。
- B) 最小フィールドとして片面30m~40mの長さを必要とし、そのフィールドは、Protection net(防護ネット)を張るものとする。
また、短辺方向は、最小長を25.0m以上とします。
- C) ネット高は60cm~90cm以上の物とします。
- D) イベント会場によりその確保が十分ではない場合は、その限りではありませんので、ご相談下さい。

- E) Protection net(防護ネット)他、本部テントをプレイヤーの待機場として設置します。
- F) 杭は、7.5m~10m間隔に使用し、杭の打ち込み長さは、20cm以下としグラウンドの暗渠に影響を与えない長さを打ち込むとします。
その日の風によりますが10本~20本程度使用します。
- G) フィールドは、以下の図4の通りとする。

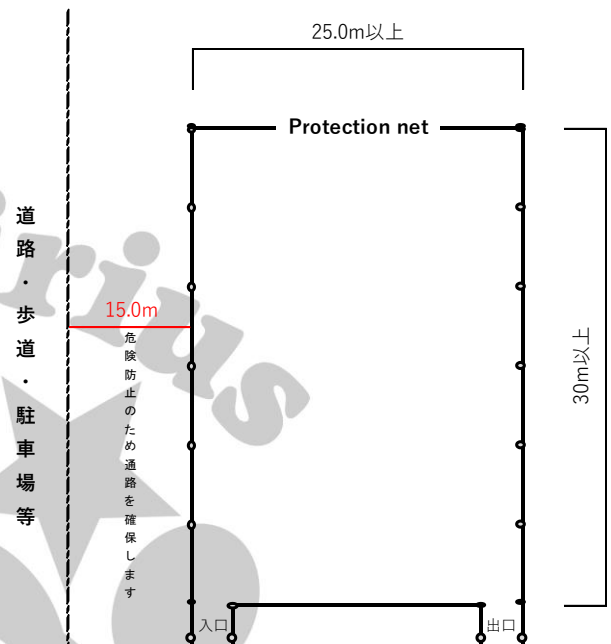


図4

12 タイムスケジュール

- A) 以下の図5にタイムスケジュールの参考例を掲載します。
- B) 基本1時間程度のデモンストレーションとなります。
- C) 各部門(ディスタンス・フリースタイル)より各5チームの計10チーム程の構成で成り立ちます。
もちろん、その日の状況によりチーム数は異なりますが、基本30分程度の公演となり、後の30分は体験型のディスクゲッターやディスクドッグセミナーとなっています。
- D) その日の状況によりある程度の時間操作を行いながら進めていきます。

内 容	予定タイム		人 名	犬 名	犬種	年齢	性別
	開始時間	経過タイム					
集合・ミーティング	11時00分	0:30	【 本部担当 三〇〇専 】				
練 習	11時20分	0:30					
開始 → 挨拶	11時50分	0:05	松坂高年				
説 明	11時55分	0:03	大〇〇人	ライト	BC	1	♂
	11時58分	0:01	大〇〇恵	友	OC	1	♂
	11時59分	0:01	大〇〇紀	キュール	BC	3	♂
	12時00分	0:01	大〇〇ぶ	アール	BC	7	♂
	12時01分	0:01	佐〇〇恵	あんり	BC	7	♀
	12時02分	0:01	加〇〇也	イーサン	BC	1	♂
	12時03分	0:01	竹〇〇紀	なつめ	柴	6	♀
フリースタイル説明	12時04分	0:01	松〇〇年				
	12時05分	0:02	大〇〇治	大	OC	6	♂
	12時07分	0:02	松〇〇年	あやめ	LR	7	♀
	12時09分	0:02	加〇〇也	イーサン	BC	1	♂
	12時11分	0:02	大〇〇紀	キュール	BC	3	♂
	12時13分	0:02	竹〇〇紀	なつめ	柴	6	♀
	12時15分	0:02	加〇〇也	フォーゼ	BC	7	♂
	12時17分	0:02	佐〇〇恵	あんり	BC	7	♀
体験ディスク&挨拶	12時19分	0:31	ゲッター	全員			
合計・終了時刻	12時50分	1:00 時間					

図)5

1 3 撤収

- E) 速やかかつ、時間内に撤収を行います。
- F) 競技者撤収後フィールド・駐車場全域にゴミのチェックや忘れ物のチェックを行います。
- G) 最後に管理者による確認をして頂きます。

1 4 お知らせ

デモンストレーションの DVD があります。必要に応じてご用意させていただきますので、一度ご相談下さい。

1 5 ホームページ紹介

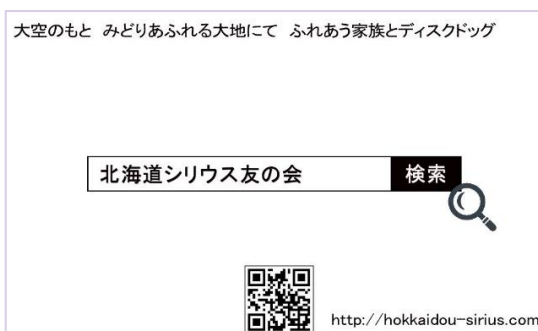


図)6

16 おもい

ディスクドッグに於いて、犬がそのディスクやおもちゃをキャッチするそして持って来る。ここに重点があるわけではありません。

ディスクドッグやレトリーブが「できる」「できない」ではないのです。

そこに向かっていく過程こそ飼い主である私とそれについていく犬とのコミュニケーションの取れる一つのツールであると思っています。

「すわれ」→「まで」→「とってこい」→「もってこい」→「はなせ」このコミュニケーションを取る最初一歩から躡け又は、服従訓練そして程よい運動にも繋がり始めて家族の良き一員となるのでは、そしてその先にディスクドッグが少し見えてくれば幸いです。

私共、シリウスはこうした行いに対し、その一角を担う「犬」と言うペットに重点をおいた団体です。デモンストレーション・練習会・競技会を通して「きっかけ」「やりかた」「すごしかた」等、様々なアプローチから後のトラブルに発展しない様に一つの道を造り出して行きたい。その願いから北海道より発信できればと思います。

何卒、ご理解して頂きご協力願えればと思います。

北海道 シリウス 友の会
代表 松坂